

# 情報連絡員報告

(令和7年6月期)

情報連絡員 30名

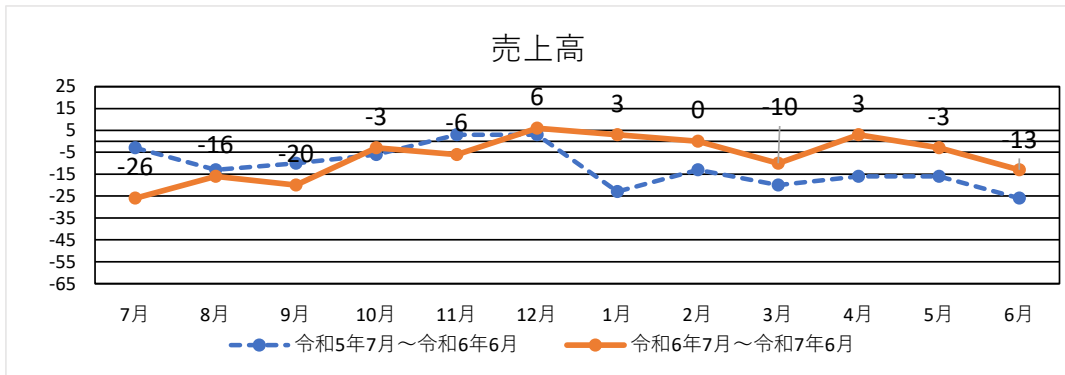
回答者数 30名

## 全体概況

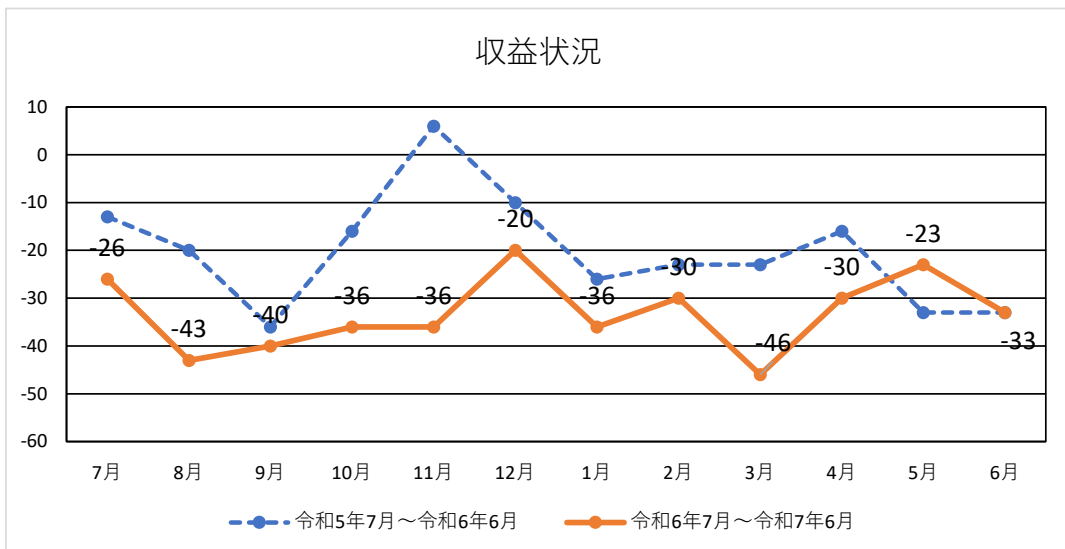
DI値は、前月と比較して、売上高は10ポイント低下、収益状況は10ポイント低下、業界景況は3ポイント低下となった。

## 1 主要3指標DI値推移

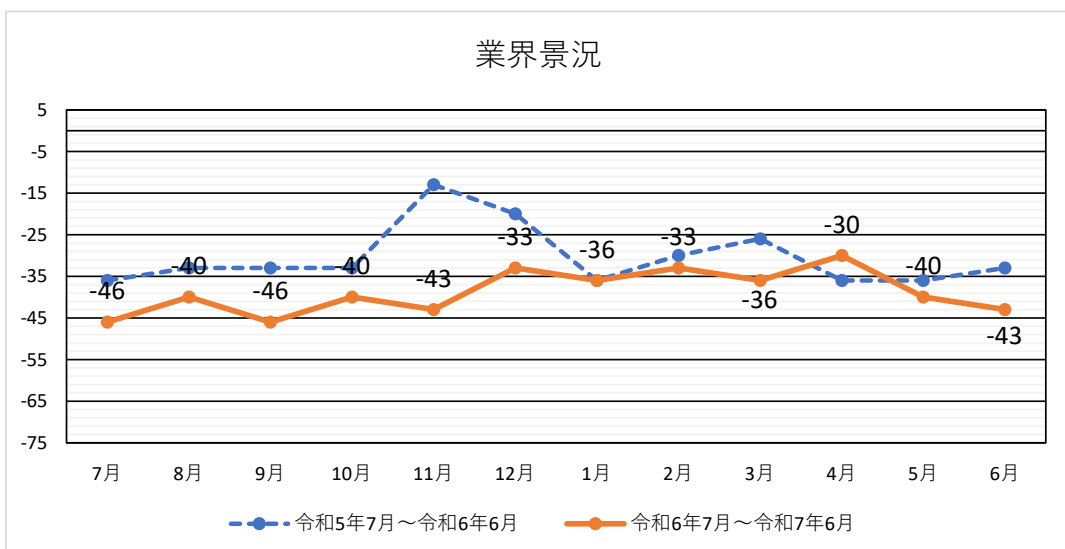
### (1) 売上高



### (2) 収益状況



### (3) 業界景況



## 2 前年同月比の業種別景気動向

(DI値)

		売上高	収益状況	業界景況
製造業	食料品	↓	→	↓
	木材・木製品	↗	→	↓
	出版・印刷	↓	↓	↓
	窯業・土石	↑	→	↓
	鉄鋼・金属	↓	→	→
非製造業	卸売	↑	→	→
	小売	↓	↓	↓
	商店街	↓	↓	↓
	サービス	→	↓	↘
	建設	→	↘	↘
	運輸	→	→	↓

↑      ↗      →      ↘      ↓

(30以上) (10~30未満) (△10~10未満) (△30~△10未満) (△30未満)

※DI値 = [(増加・好転組合数 - 減少・悪化組合数) / 調査対象組合数] × 100

※網掛けについては、特に悪化した項目

## 情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	木材・木製品	製材業	需要回復の兆しがない。
	木材・木製品	製材業 (プレカット)	6月の生産坪数は先月比で約20%ダウンと大きく減少した。昨年同月比では、昨年度の5月・6月の受注が特に低調であったこともあり、ほぼ同水準となった。建築基準法改正に伴い、建築確認申請の混乱や遅延が想定されたことから、ビルダーが前倒しで着工する傾向が見られたが、その反動が現れている可能性がある。この状況が継続すれば、同業他社以前に顧客側の経営が困難となり、与信管理が一層厳しくなることが予想される。その結果、思い切った営業活動も難しくなり、しばらくは耐える時期となる。
	木材・木製品	木製品製造業	原材料等、経費の上昇については高止まりの状況である。
	印刷	印刷・同関連業	例年、この時期の売上は決算期を迎えることもあり増加傾向にあるが、今年は思ったほど受注が伸びなかった。これもDXの影響であるのだろうか。
	印刷	印刷・同関連業	相変わらず需要は停滞気味であり、好転の兆しは依然として見えないまま、7月より再び原材料の値上げが始まる。クライアントへの販売価格の引き上げは進んでいるものの、再度の値上げをお願いしなければならぬ状況に、困惑せざるを得ない。また、組合員の中には異業種への進出を検討・実行しているという話も耳にするようになり、目の前の利益確保に四苦八苦している様子が見える。
	窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	6月単月の出荷数量は前年同月比109%、累計では前年同月比100%となった。第1四半期の出荷量は昨年とほぼ同じであるが、販売単価は上がっており、工場集約化と合わせて、損益はおおむね予想通りとなっている。民間の需要がもう少し伸びてくれれば助かる場所である。
窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	前年同月と比較すると52.8%の実績となった。価格は値上げ済みであるが、さすがに少なすぎる数値である。来月以降の回復に期待したい。	
非製造業	小売業	機械器具小売業	アメリカの関税問題で5月から仕入れに慎重になる販売店が増え、組合で開催しているオークションも成約率は芳しくなかった。また、組合員の店舗での販売も振るわず、この時期は車業界において氷河期と言えよう。
	小売業	石油販売業	中東情勢の緊迫化に伴い、原油価格が高騰している。政府は燃料油に一定額を支給する「定額引下げ措置」を実施しているが、急激な価格上昇に備え、新たに追加措置として「予防的な激変緩和措置」が6月26日から実施され、燃料油の価格は低下した。
	小売業	LPGガス小売販売業	6月合成CP価格(サウジ通告価格)は605.0ドル/トン(前月比△7.5ドル/トン)。5月MB価格(米産平均価格)+(物流経費90ドル/トン)は472ドル/トン(前月比△62.0ドル/トン)。対顧客電信売相場(5月平均)は145.75円/ドル(前月比+0.26円/ドル)。原油市況は月間を通じ小幅な値動きとなった。MB相場は米中貿易摩擦で想定された中国からの需要回復が見られず価格は下落。CP価格は米中関税引き下げ合意が発表されたことで下落すると見られたが、予想に反し段階的に上昇した。
	商店街	宮崎市	最近の気温上昇により、日中の人通りが減少している。
	商店街	都城市	例年になく早い梅雨明けとなり、暑さが厳しかった。あまりに気温が高いため、街に人が出なくなり、人通りがほとんど見られない状況である。そのため、大型店に人が流れてしまっている。月末からの新燃岳の噴火については、風向きによってはかなりの降灰が予想されるため、経済活動に影響が出ないか懸念している。
	サービス業	観光業	今期は例年とほぼ変わらない業績であった。初めて出向く観光地もあり、組合員同士勉強会を行い、無事に業務を終えることができた。また、6月は弊社創立の月で、お陰様で20周年を迎えることができた。これからも初心を忘れず、組合員一丸となり努めていきたい。
	サービス業	自動車整備業	今月の入庫台数は多いと感じていたが、前年比微減であった。全く入庫のない組合員工場も数件あった。
	サービス業	自動車運転代行業	6月は後半から代行利用の方が増加した。7月はボーナス時期になるので期待したい。
	建設業	管工事業	令和7年度より、宮崎市上下水道局発注の鉛製給水管取替工事(従来は年間100億円強)が大幅に減少する予定である。これに伴い、組合員向け共同受注配分工事も大きく落ち込むことが予想される。組合としては、これに代わる共同受注配分に繋がる工事の確保が望まれる。

## 情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	建設業	管工事業	大型物件の発注が徐々にではあるが、見られるようになってきた。ただし、これから本格的な夏場を迎えるにあたり、熱中症による災害の発生が懸念される。
	運輸業	軽貨物運送業	6 月度は梅雨時期の関係もあり、仕事量は減少傾向で推移しており活発さに欠けている。燃料関係は微妙に下がってきているが、以前のような価格には程遠い金額である。新規開業者の募集も行っているが、面接等の問い合わせは皆無である。組合員の高齢化が深刻であり、できるだけ早めに新規開業者を募集する事が急務となっている。
	運輸業	貨物運送業	原油価格は、ロシア・ウクライナの停戦の早期進展期待が遠退いたことや、米国とイランの核開発協議で両国の主張の隔たりが鮮明になったことなどを受け上昇している。国内市場価格も政府の燃料油価格に対する支援措置が定額の 10 円に到達していることから上昇すると見込まれており、国内燃料価格も不安定に推移すると思われる。